

第1回 テニスの科学技術に関する 国際会議 (ITF 国際テニス連盟) 報告

川 副 嘉 彦 (埼 玉 工 業 大 学)

国際テニス連盟 (ITF) 主催のテニスの科学技術に関する第1回国際会議 (TTS) が2000年8月にロンドン郊外の Roehampton で開催されました。

全英 (ウィンブルドン) テニス選手権予選が行われる町です。

講演者70数名を含む250名の研究者やテニス協会関係者が15カ国以上から参加しました。

用具, スポーツ科学, 施設, ゲームの4つのセッションが Agassi, Becker, Connors の3会場で行われ, 活発な討論が行われました。

話題の中心は, 世界各国のスポーツ・レジャーの現状を調査した研究と新しく公認されたラージボールの影響についての研究です。

これらの研究には ITF や USTA (全米テニス協会) が助成していました。

ITF の Coe 氏による基調講演「テニスにおける技術と伝統の調和」は, 今後のスポーツ工学の社会への寄与を考えると多くの示唆を与えてくれます。

ラージボールは, 従来のボールより直径が約8%大きく, 質量や反発係数の規定は同じです。

芝などの高速コートでのスピード化に歯止めをかけてテニスを面白くしようという意図です。

我々もプレイヤーの上肢の衝撃振動への影響に関して研究報告を提出しました。

ホテルや参加費は高いですが, 会場の大学寮に安く泊まれますし, 運営は完璧でした。

会場の隣のコートでいつでもテニスができますし, ウィンブルドン前哨戦大会が開催されるテニスクラブでの参加者によるデビスカップ (国別対抗) テニス大会, No.1コートが見えるウィンブルドン大会会場での晩餐会など, スポーツの会議はやはり楽しいです。

会議の内容については, 吉成啓子教授 (白百合女子大学) がテニスジャーナル2001年2月号でも詳しく報告しています。